



## 平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月2日

上場取引所 東

上場会社名 富士急行株式会社

コード番号 9010 URL <http://www.fuikyu.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀内 光一郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役IR推進室長兼経営管理部長 (氏名) 和田 一成

TEL 0555-22-7120

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	22,558	△8.6	2,284	△25.8	1,795	△28.4	981	0.7
23年3月期第2四半期	24,667	2.7	3,081	13.3	2,506	19.6	974	△17.1

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 989百万円 (△27.8%) 23年3月期第2四半期 1,370百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	9.25	—
23年3月期第2四半期	9.18	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	89,430	16,542	17.8
23年3月期	86,969	16,086	17.9

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 15,957百万円 23年3月期 15,543百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	—	—	5.00	5.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,460	2.0	2,820	7.8	1,650	4.8	720	8.3	6.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	109,769,477 株	23年3月期	109,769,477 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	3,739,915 株	23年3月期	3,738,925 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	106,030,216 株	23年3月期2Q	106,192,111 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報等 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災により深刻な影響を受けた経済活動や個人消費に回復の兆しが見られたものの、長引く円高や株式市場の低迷などにより先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループは、運輸、不動産、レジャー・サービス、その他の各事業にわたり、積極的な営業活動と経営の効率化に努めてまいりました。震災発生直後からの大幅な市場環境の悪化を受け、営業収益は225億58百万円（前年同期比8.6%減）、営業利益は22億84百万円（同25.8%減）となりましたが、四半期純利益は特別損失が前年同期より減少したこともあり9億81百万円（同0.7%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

## (運輸業)

鉄道事業では、7月1日に富士吉田駅の名称を富士山駅に変更し、富士山の玄関口として自然環境に恵まれた「富士山に一番近い鉄道」富士急行線にふさわしい魅力的な公共空間として駅施設の一部をデザイナー水戸岡鋭治氏の全面的なサポートのもと、リニューアルするとともに、富士吉田市や商工会議所、地元商店街等と連携し、富士山駅を起点とした街めぐり散策ルートの整備や共同イベントを実施するなど地域の活性化に取り組みました。

また、JR東日本との連携を強化し、横浜線から初の直通列車「快速富士河口湖号」の運行や各種イベントに連携した記念入場券を販売するなど増収に努めました。

乗合バス事業では引き続き不採算路線の改善を行うとともに、近年静かな人気を呼んでいる一合目登山道からの富士登山に便利な馬返しまでの乗合バス運行を開始しました。

高速バス事業では、「大宮～河口湖線」でゴールデンウィークにあわせて池袋駅への乗入れを開始し新規顧客の掘り起こしに努めるとともに、国内外のお客様が利用する羽田空港と富士山・富士五湖とのアクセスを飛躍的に向上させる「羽田空港～富士山駅線」の運行を開始し、夏季登山シーズンには一部の便が富士山五合目まで乗入れました。

貸切バス事業では、4月に山中湖エリアにおいて陸上でも水上でも走行可能な水陸両用バス「YAM ANAKAKO NO KABA」の運行を開始し、多くのお客様から好評を博しました。

ハイヤー・タクシーなどの各事業を含めた運輸業全体では、市場環境の急激な悪化に対し、主に貸切バスを中心として事業規模、営業体制の見直しに取り組んでおりますが、営業収益は76億37百万円（前年同期比13.9%減）となり、営業利益は3億14百万円（同60.0%減）となりました。

## (不動産業)

不動産販売事業では、引き続き山中湖畔別荘地において、大人の趣味・嗜好を追求できる「コンセプト・ヴィラ」シリーズに、新商品の「煉瓦の森山中湖」、「木漏れ日の森」等を加えるとともに、訴求効果の高いWEBサイトをリニューアルし需要の喚起を図るなど積極的な販売活動を展開しました。また、夏季には別荘オーナー様を対象とした「パーカッションライブコンサート」など各種イベントの開催や前年より運行を開始し好評を博している「オーナーズバス」の運行ルートを延長するなど、CS及び利便性の向上に努めました。

不動産賃貸事業では、事業用土地の有効活用として新たにロードサイドホテルへの賃貸を開始するとともに、既存施設は計画的な改修を進め、また、不動産別荘地管理事業ではメンテナンス工事の受注拡大を図るなど安定的な収益の確保に努めました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は13億86百万円（前年同期比2.7%減）、営業利益は4億20百万円（同3.5%増）となりました。

## (レジャー・サービス業)

遊園地事業では、7月に富士急ハイランドに5年ぶりの大型設備投資である最大落下角度世界一（ギネス記録認定）のローラーコースター「高飛車」を導入し好評を博しました。

富士南麓のゆうえんちぐりんぱでは、7月「ピカソのタマゴ」に新たな5種類のアスレチックを追加し集客に努めました。

さがみ湖リゾートプレジャーフォレストでは、4月に首都圏最大級のデイキャンプ場となる「ワイルドクッキングガーデン」を、また7月に迷路のテーマゾーン「森の迷路」を導入し、前年同期を上回るお客様にご来場いただきました。

ホテル事業では、6月にハイランドリゾートホテル&スパ最上階の12階フロアにスカイバンケット「ティアラ」をオープンし、8月にはキッズルーム「トモミハウス」を新設し集客に努めました。

富士本栖湖リゾートでは、4年目を迎えた「富士芝桜まつり」を4月下旬～5月後半まで開催しました。物販・飲食部門の充実を図り集客に努めましたが、芝桜の一部に生育不良が見られたため、来場者数は前年を大きく下回る結果となりました。

株式会社ピカでは、静岡県における『小山町道の駅「すばしり」観光交流センター』などの飲食物販売事業やさがみ湖パディントンベアキャンプグラウンドをはじめとするキャンプ事業において、前年同期を上回る多くのお客様にご利用いただきました。

また、夏でも洞窟内の温度が0～3℃という清涼スポットである富岳風穴・鳴沢氷穴では、多くのパブリシティを獲得し前年同期を上回るお客様にご利用いただきました。

以上の結果、レジャー・サービス業全体の営業収益は119億14百万円（前年同期比7.7%減）となり、営業利益は14億67百万円（同24.5%減）となりました。

#### （その他の事業）

百貨店業では、富士山駅への駅名変更に合わせ、新たな富士山の玄関口である「Q-S T A」をリニューアルするとともに鉄道事業とのタイアップ商品「Q-S T Aお買物きっぷ」を発売するなど集客に努めました。

製造販売業では、富士ミネラルウォーターの販売が引き続き好調に推移したこと等により収益が向上しました。

以上の結果、その他の事業全体の営業収益は36億44百万円（前年同期比18.8%増）となり、営業利益は1億11百万円（同1億36百万円増益）となりました。

### （2）連結財政状態に関する定性的情報

#### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて24億61百万円増加し、894億30百万円となりました。

また、負債は、リース債務の増加などにより前連結会計年度末に比べて20億6百万円増加し、728億88百万円となりました。なお、借入金は、長短合計で3億93百万円減少しております。

純資産合計は、利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べて4億55百万円増加し、165億42百万円となりました。

#### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ18億52百万円増加し、106億57百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益17億18百万円に減価償却費などを加減した結果、44億40百万円の資金収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得などにより、20億27百万円の資金支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済などにより、5億60百万円の資金支出となりました。

### （3）連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、第2四半期連結累計期間の業績や今後の見通しを踏まえ、平成23年5月11日に公表した業績予想を変更しておりません。

なお、平成24年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想につきましては、東日本大震災の影響による不透明な状況が続く厳しい環境の中、合理的な算定が困難であり未定としておりました。

## 2. サマリー情報(その他)に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,884,366	10,733,630
受取手形及び売掛金	1,964,662	1,934,975
分譲土地建物	8,657,980	8,650,401
商品及び製品	688,331	726,265
仕掛品	11,423	25,600
原材料及び貯蔵品	573,341	594,341
未成工事支出金	91,137	295,762
繰延税金資産	470,783	616,436
その他	858,465	1,001,294
貸倒引当金	△12,257	△8,966
流動資産合計	22,188,234	24,569,741
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	26,831,624	26,986,193
機械装置及び運搬具(純額)	6,652,344	6,033,159
土地	16,666,284	16,687,165
リース資産(純額)	1,644,368	4,234,156
建設仮勘定	2,457,096	432,777
その他(純額)	1,405,754	1,411,062
有形固定資産合計	55,657,472	55,784,515
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	4,172,530	4,040,803
繰延税金資産	871,997	876,411
その他	1,014,881	1,126,521
貸倒引当金	△24,209	△24,645
投資その他の資産合計	6,035,200	6,019,091
固定資産合計	64,780,798	64,860,913
資産合計	86,969,032	89,430,654

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,752,921	2,046,154
短期借入金	16,444,630	16,408,448
リース債務	371,731	765,653
未払法人税等	245,463	815,407
賞与引当金	415,094	394,771
役員賞与引当金	9,000	—
その他	4,829,248	3,805,504
流動負債合計	24,068,090	24,235,940
固定負債		
長期借入金	39,673,756	39,316,488
リース債務	1,368,917	3,699,467
退職給付引当金	1,092,048	1,054,920
その他	4,679,221	4,581,352
固定負債合計	46,813,942	48,652,228
負債合計	70,882,033	72,888,168
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,126,343	9,126,343
資本剰余金	3,417,109	3,417,124
利益剰余金	4,647,310	5,099,857
自己株式	△1,566,586	△1,567,043
株主資本合計	15,624,177	16,076,282
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△80,244	△119,100
その他の包括利益累計額合計	△80,244	△119,100
少数株主持分	543,066	585,304
純資産合計	16,086,999	16,542,486
負債純資産合計	86,969,032	89,430,654

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業収益	24,667,595	22,558,359
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	21,076,437	19,770,944
販売費及び一般管理費	509,871	502,505
営業費合計	21,586,309	20,273,450
営業利益	3,081,286	2,284,908
営業外収益		
受取利息及び配当金	22,806	23,139
雑収入	88,646	99,332
営業外収益合計	111,452	122,472
営業外費用		
支払利息	578,422	578,498
雑支出	107,594	33,147
営業外費用合計	686,016	611,645
経常利益	2,506,722	1,795,735
特別利益		
固定資産売却益	4,881	68,493
投資有価証券清算益	—	29,578
工事負担金等受入額	111,107	—
補助金	13,300	38,499
貸倒引当金戻入額	2,349	—
特別利益合計	131,638	136,570
特別損失		
固定資産売却損	2,384	712
投資有価証券評価損	947,278	82,940
固定資産圧縮損	114,902	38,499
固定資産除却損	120,848	91,629
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	92,300	—
特別損失合計	1,277,713	213,780
税金等調整前四半期純利益	1,360,647	1,718,525
法人税、住民税及び事業税	1,042,025	818,888
法人税等調整額	△676,339	△129,009
法人税等合計	365,685	689,879
少数株主損益調整前四半期純利益	994,962	1,028,646
少数株主利益	20,571	47,363
四半期純利益	974,390	981,282



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	994,962	1,028,646
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	356,518	△36,341
持分法適用会社に対する持分相当額	19,314	△2,304
その他の包括利益合計	375,832	△38,646
四半期包括利益	1,370,794	989,999
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,351,439	942,425
少数株主に係る四半期包括利益	19,355	47,573

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,360,647	1,718,525
減価償却費	2,305,067	2,408,382
固定資産除却損	51,931	13,003
固定資産圧縮損	114,902	38,499
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3,046	△2,854
賞与引当金の増減額(△は減少)	5,547	△20,322
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△9,000	△9,000
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△81,913	△37,128
受取利息及び受取配当金	△22,806	△23,139
支払利息	578,422	578,498
持分法による投資損益(△は益)	—	△19,252
固定資産売却損益(△は益)	△2,497	△67,781
投資有価証券評価損益(△は益)	947,278	82,940
投資有価証券清算損益(△は益)	—	△29,578
補助金収入	△13,300	△38,499
工事負担金等受入額	△111,107	—
売上債権の増減額(△は増加)	256,577	29,686
たな卸資産の増減額(△は増加)	△388,198	△270,156
仕入債務の増減額(△は減少)	△194,456	293,232
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	92,300	—
その他の資産・負債の増減額	948,463	592,768
小計	5,834,811	5,237,824
利息及び配当金の受取額	25,079	30,526
利息の支払額	△579,493	△576,135
法人税等の支払額	△410,062	△251,375
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,870,333	4,440,840
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△782	△481
定期預金の払戻による収入	2,000	3,600
補助金の受取額	152,817	93,686
工事負担金等受入による収入	111,107	—
有形固定資産の取得による支出	△2,518,305	△2,210,844
有形固定資産の売却による収入	8,317	83,635
有価証券の償還による収入	9,992	—
投資有価証券の取得による支出	△119,463	△945
関連会社株式の売却による収入	23,200	—
投資その他の資産の増減額(△は増加)	10,404	3,361
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,320,713	△2,027,987
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△25,000	△81,000
長期借入れによる収入	4,807,000	4,533,000
長期借入金の返済による支出	△4,567,682	△4,845,450
セール・アンド・リースバック取引による収入	84,209	606,445
リース債務の返済による支出	△147,473	△272,272
自己株式の取得による支出	△630	△740
自己株式の売却による収入	47,500	298
配当金の支払額	△528,068	△495,415
少数株主への配当金の支払額	△3,834	△5,335
財務活動によるキャッシュ・フロー	△333,981	△560,470
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,215,638	1,852,382
現金及び現金同等物の期首残高	7,533,654	8,805,203
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,749,293	10,657,586

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

(セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計				
営業収益								
外部顧客に対する営業収益	8,833,829	1,176,590	12,690,750	22,701,170	1,966,425	24,667,595	—	24,667,595
セグメント間の内部営業収益又は振替高	33,992	248,767	216,340	499,100	1,100,756	1,599,857	△1,599,857	—
計	8,867,822	1,425,358	12,907,090	23,200,271	3,067,181	26,267,452	△1,599,857	24,667,595
セグメント利益又は損失(△)	785,862	406,504	1,943,238	3,135,605	△25,401	3,110,203	△28,917	3,081,286

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、百貨店業、建設業、製造販売業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△28,917千円には、セグメント間取引消去△31,174千円等が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計				
営業収益								
外部顧客に対する営業収益	7,607,019	1,137,817	11,693,100	20,437,937	2,120,422	22,558,359	—	22,558,359
セグメント間の内部営業収益又は振替高	30,519	249,137	221,547	501,204	1,523,855	2,025,060	△2,025,060	—
計	7,637,539	1,386,954	11,914,647	20,939,141	3,644,278	24,583,420	△2,025,060	22,558,359
セグメント利益	314,712	420,631	1,467,961	2,203,304	111,219	2,314,523	△29,614	2,284,908

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、百貨店業、建設業、製造販売業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△29,614千円には、セグメント間取引消去△31,896千円等が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。